平成26年西東京市教育委員会第９回定例会会議録

１　日　　時　　平成26年９月20日（土）
　　開会　午前10時06分　　閉会　午前11時17分

２　場　　所　　防災センター６階　講座室２

３　付議事件　　別紙議事日程のとおり

４　出席委員　　委員長　　竹尾　格
　　委員長職務代理者　　宮田　清藏
　　委員　　森本　寛子
　　委員　　髙橋　ますみ
　　委員　　米森　修一
　　教育長　　江藤　巧

５　出席職員　　教育部長　　櫻井　勉
　　教育部特命担当部長　　坂本　眞実
　　教育企画課長　　早川　礼成
　　学校運営課長　　宮坂　哲史
　　教育指導課長　　田中　稔
　　教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　　内田　辰彦
　　指導主事　　宮本　尚登
　　教育支援課長　　渡部　昭司
　　教育部副参与兼社会教育課長　　山本　一彦
　　公民館長　　田中　政治
　　図書館長　　奈良　登喜江

６　事務局　　教育企画課課長補佐　　岡本　範子
　　教育企画課企画調整係長　　倉本　直子

７　傍聴人　　２人

平成26年西東京市教育委員会第９回定例会議事日程

日　時　　平成26年９月20日（土）　午前10時から
場　所　　防災センター６階　講座室２

第 １　会議録署名委員の指名
第 ２　議案第38号　西東京市公立学校職員に関する措置等について
第 ３　報 告 事 項　(1) 児童生徒数・学級数の状況について
(2) 西東京市公立学校職員に関する処分について
(3) 平成 26 年度　全国学力・学習状況調査報告
第 ４　そ　の　他

西東京市教育委員会会議録

平成26年第９回定例会
（９月20日）

午　前　10　時　06　分　開　会

議事の経過

○竹尾委員長　ただいまから平成26年西東京市教育委員会第９回定例会を開会いたします。

これより直ちに本日の会議を開きます。

日程第１　会議録署名委員の指名を行います。本日は森本委員にお願いしたいと思いますが、ご異議ございませんか。それでは、本日は森本委員にお願いいたします。

○竹尾委員長　次に、秘密会にて取り扱う議題を決定したいと存じます。

日程第２　議案第38号　西東京市公立学校職員に関する措置等について及び報告事項

（２）西東京市公立学校職員に関する処分については、個人情報に関する案件であることから、西東京市教育委員会会議規則第13条第１項ただし書きの規定に基づきまして会議を秘密会として、日程第４　その他の後に開催したいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○竹尾委員長　どうもありがとうございます。御異議ないようですので、ただいまの案件については秘密会で取り扱うことにいたします。

○竹尾委員長　日程第３　報告事項に移ります。質疑は後ほど一括して行いますので、説明をお願いいたします。

まず、児童生徒数・学級数の状況についてを議題といたします。

○早川教育企画課長　それでは、平成26年９月１日現在の児童・生徒数について報告させていただきます。

資料の児童数・学級数状況表を御覧ください。表面が小学校で、裏面は中学校となっております。

まず、表面のＡ通常学級の表、一番上の表を御覧ください。合計欄の右下の部分でございます。小学校19校で児童数は9,149名でございます。児童数は４月当初から比べますと17名の減となっております。また、昨年の同時期の９月対比で見てみますと16名の減となっております。内訳でございますが、昨年の９月と比べて児童数が増えている学校、減っている学校がございます。増えている学校につきましては、向台小学校が64名、保谷小学校が32名、本町小学校が16名、そのほか増えている学校が６校でございます。逆に、児童数が減っている学校でございます。泉小学校が38名、けやき小学校が33名、谷戸小学校が31名、碧山小学校が26名減っておりまして、そのほか６校が昨年の９月対比で児童数が減っております。

続きまして、裏面を御覧ください。中学校生徒数でございます。９月１日現在で通常学級の生徒数合計は3,960名となっております。４月対比では４名の増でございます。また、昨年の９月対比で見ますと11名の増となっております。学校別に見ますと、昨年の９月と比べて生徒数が増えている中学校は、田無第一中学校が48名、田無第二中学校が24名の増となっております。一方、生徒数が減っている中学校につきましては、田無第四中学校が26名、ひばりが丘中学校が15名、そのほか４校が昨年の９月対比で生徒数が減っております。

全体を通しまして、児童・生徒数の増減につきましては、各学校、地域によりまして、ま

た年度によりましても増えている学校、減っている学校、ばらつきがあるという状況でございます。

報告は以上でございます。

○竹尾委員長　引き続きまして、平成26年度全国学力・学習状況調査報告を議題といたします。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　それでは、私から、平成26年度全国学力・学習状況調査報告について説明させていただきます。

この報告につきましては、第７回教育委員会定例会におきまして御決定賜りました西東京市における平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の取扱いについてに基づき報告いたします。

お手元の平成26年度全国学力・学習状況調査報告を御覧ください。

１の調査の内容でございますが、４月22日に小学６年生と中学３年生の全児童・生徒を対象として国語、算数・数学の２教科及び質問紙調査を実施しました。なお、各教科では、主に知識に関する問題であるＡ問題と主に活用に関する問題であるＢ問題の２種類の問題を実施しております。

２の調査の目的につきましては、御覧いただいたとおりでございます。

３の調査結果でございます。（１）の表が小学６年生の結果でございます。国語と算数の２教科のそれぞれで主に知識に関するＡ問題と主に活用に関するＢ問題について、全国、東京都、西東京市の平均正答率、更に全国と東京都、西東京市を比較した値を示しております。西東京市の正答率でございますが、国語Ａは75.8％、国語Ｂは57.9％となり、全国比でプラス2.9ポイントとプラス2.4ポイント、東京都比ではプラス0.3ポイントとプラス0.7ポイントとなっております。算数Ａは80.0％、算数Ｂは63.5％となり、全国比でプラス1.9ポイントとプラス5.3ポイント、東京都比でプラス0.6ポイントとプラス2.3ポイントとなっております。

（２）の表は中学３年生の結果でございます。西東京市の正答率でございますが、国語Ａは83.1％、国語Ｂは54.3％となり、全国比でプラス3.7ポイントとプラス3.3ポイント、東京都比ではプラス2.4ポイントとプラス1.1ポイントとなっております。数学Ａは70.6％、数学Ｂは63.0％となり、全国比でプラス3.2ポイント、プラス3.2ポイント、東京都比ではプラス1.8ポイントとプラス1.2ポイントとなっております。

（３）は質問紙調査のうち特徴的な内容をお示ししました。自尊感情や自己肯定感に係る設問、例えば「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験があるか」、あるいは「自分によいところがあると認識しているか」などの問いに対して肯定的な回答をしている児童・生徒の割合は、全国平均値より小学校で４～５％、中学校で２～３％程度高くなっております。読書が好きな児童・生徒の割合は、全国平均値と比較すると、小学校では４％程度高くなっている一方、中学校では４％低くなっております。

４の結果の考察といたしましては４点ございます。

１点目として、小・中学校ともに全国の平均正答率を若干上回っております。しかし、学校ごとに見ると正答率が異なるため、各校で本調査の結果を分析することが求められます。

２点目として、市全体では国や東京都の分布とほぼ同様の分布となります。

恐れ入りますが、裏面を御覧ください。こちらは教科ごとの合計正答数の分布を示しております。例えば左上の小学校国語Ａを御覧ください。小学校の国語Ａ問題は全部で15問あり、西東京市の正答数の分布は棒グラフで示したとおりとなります。また、本市における正答数の平均値は市平均11.4であり、平均として15問中11.4問を正答したというものでございます。また、全国の分布は◆の点で示した折れ線グラフ、東京都の分布は▲の点で示した折れ線グラフとなります。御覧のように、八つのグラフ全体では、教科や学年によって分布の様子は異なりますが、西東京市の分布の仕方としましては、都、全国と比較して大きな違いは見られません。

恐れ入りますが、再度表面に戻っていただき、考察の続きを申し上げます。しかしながら、学校別に分析をいたしますと、全国の平均正答率を下回る学校では、正答数の少ない児童・生徒と正答数の多い児童・生徒との二極化の傾向が見られました。また、活用力を問うＢ問題では、ほとんど正答していない児童・生徒が多く見受けられました。該当校では、身につけた知識・技能を活用するなどの授業改善を行う必要があると捉えております。

３点目として、教科及び学校ごとの結果から、算数の研究に直近で取り組んだ小学校３校におきましては、算数Ｂの平均正答率が全国平均値より９～14％高くなっており、研究を通した授業改善が行われたことがその要因として考えられます。

４点目として、中学校では、全国平均より読書の好きな生徒の割合が低いことが示されております。読書活動は学力との相関関係が強いため、読書活動を推進するための取組の一層の充実が必要であると捉えております。

５の今後の取組の方向性といたしましては５点ございます。

１点目として、指導主事等の訪問指導により、各学校で作成する「授業改善推進プラン」の改善・充実を図ります。

２点目として、教科専門性の高い教員等を集めた「（仮称）学力向上委員会」を設置し、本市の課題に基づく教材開発等を推進していきます。

３点目として、各学校の課題に基づく、夏季休業期間等を活用した補習等の充実を図ります。

４点目として、授業改善を図ることを目的に各学校における教科研究の充実を図ります。また、小・中連携、小・小の連携の強化により、教員同士が学び合う風土を醸成します。

５点目として、各学校における読書活動を充実させ、活用力等を高めます。

私の説明は以上となります。

○竹尾委員長　説明が終わりました。一括して質疑を受けます。

○森本委員　まず、学力調査のほうで、やはり小学校、中学校、各学校によって差があるというお話でしたけれども、こういう結果というのは、例えばよく言われるのは、毎年子どもが変わるので、子どもが違えば数字も違うというような言い方をされますけれども、学校ごとに毎年継続してこの学校のここ何年間の数値みたいな調査は、それはそれでなさっているんでしょうか。というのは、変な言い方ですけれども、今回低かった学校は毎年ずっと低かったのか、それとも、今年は低かったけれども去年まではずっと高くて、たまたま今年が低かったとか、そういうことがあるのかどうか、そういうような傾向みたいなものはあるんでし

ょうか。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　この全国学力・学習状況調査、全校実施は平成25年度、そして26年度と２年続けてここは行われているので、その２年間の中では、それぞれの学校で自分の学校の傾向、平均と比べたりもしますし、それから分布の仕方、例えば平均の正答率はございますけれども、やはり問題の正答率の低い層が多くあって、そして平均正答数が多いところがあって、二極化の傾向が続いている、ですとか、そういったところは各学校で分析をして、それを自分の学校の課題として捉えております。ただ、全部出ているのは25、26年度なので、その中で今比較しながら分析をしているところでございます。

○森本委員　あと、これは、先日、７月の終わりに中学校のブックフェスティバルが行われて、とてもいい催しだなと感じました。今回この調査を見ると、中学校で読書の割合が低いという結果が出ているというのを聞いて、今後、有効活用していければいいなというふうに思いました。今回とても子どもたちは熱心に頑張っていましたけれども、やはりそれも学校によって取組の差はあるのかなというところも感じましたので、今後あれがもう少し発展していくといいなと思ったことと、今回の山根先生の講演もとてもいいお話だったなと思って聞かせていただいたんですけれども、ああいう方をお呼びするに当たっては、やはり予算の要ることだと思うのですが、その辺の予算とかも今後ちゃんとつけていただけるようになっているのかどうかということをお伺いしたいです。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　今、委員からお話しいただきましたように、読書活動を充実させる一つの方法として、７月の終わりに行われましたブックフェスティバルのような形は今後も継続していきたいと考えております。また、あの取組は教育委員会を中心とした取組になりますので、各学校におきましても、学校図書館専門員や学校図書館の担当の教員、あるいは司書教諭等を中心に、各学校において読書活動が充実するように、例えば11月の読書月間においては取組を工夫するなどして、読書好きの子どもが増えるように、今後も教育委員会も指導したり学校に支援したりしてまいりたいと考えております。

○森本委員　よろしくお願いします。

○宮田委員　第３番なんですけれども、インテンシブというか、精力的に取り組むと、そこで９％から14％高くなっているということ、これはすごい驚異的なことなんですね。平均を見ると、１％とか、そういうことですから。また、そのことを考えると、かなり低いところがあって１％もあるんだろうというふうに思うわけです。だから、どうやって取り組んだとか、こういう成功例を皆さんに、ほかの学校にも知らせてあげて、それで、そこで更なる独自性も発揮していい教育をやっていただきたいということが第１点です。

　それから、５番目に書いてありますが、今後の取組の方向性なんですが、「各学校における読書活動を充実させ、活用力等を高める」ということが、何かこれは抽象的にしか思えないんですね。読書活動を充実させ活用力を高めるにはどういうことをお考えなのでしょうか。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　まず、１点目のそれぞれの研究に取り組んだ成果を広めていったほうがよろしいということで御意見いただきましたけれども、そのように私どもも考えております。研究奨励事業の中で研究指定校や研究奨励校としてその取組は各学校には紹介しているんですけれども、こういった結果のことも踏まえまして、今後更

に学校で工夫した算数での取組等は紹介してまいります。また、今後の取組の方向性の（２）のところにあります教科の専門性が高い教員を集めた学力向上委員会等でも、そういった成果のあった取組等を中心にしながら、今後、更に良い取組を各学校に広めるようにしてまいります。

（５）の「読書活動を充実させ、活用力等を高める」ということで、ちょっと大きな視点で書かせていただきましたが、具体的には読書活動、例えば学校図書館を使って調べ活動をして、それを発表させたり、あるいは、自分が調べたことを図に描いたり、いろんな形で発表させるなど、ふだんの学習活動の中に読書を使った、読書に関連した学習を意図的に入れ、それを使うことで自分たちが獲得した知識を使える、それを使って表現したりするような学習活動をするように、そのあたりのことについても各学校に情報提供するなどして支援してまいります。

○米森委員　結果の中で、４番の（２）で、平均で見るとわからなくなりますけれども、二極化というのは大きい問題かもしれませんので、その二極化の中でも、低いほうの層の原因というのが多分本人じゃなくて家庭環境――いろいろかもしれませんが、その辺を深掘りしていただいて、全体の底上げをしていただければというのがこの中で思った点です。

それからもう一つは、読書活動を推進するのも当然だと思うんですけれども、いろいろ聞き及びますと、例えばスマホとかゲームとかラインでとか、そういうのに時間を奪われて、なかなかいかない子どもさんもいると思いますので、その妨げる要因といいますか、そちらをどうすればいい――規制していいのかどうかもわかりませんので、そこをどうするかという、時間の生み出し方というのも一方で必要じゃないかなと思いますので、御検討していただければと思います。

以上です。

○竹尾委員長　この間、朝日新聞の天声人語に、ゲームとか、そういうことが少ない子のほうが成績がいいと。それから、外遊びする子のほうがやっぱり成績がいいと、この結果のことですね。それと、手前みそだとは書いてあったけれども、新聞をよく読む子は成績がいいということが天声人語には載っていましたがね。まあ、こういうことも参考になるだろうと思うから、こういうことを今の指導の中で考えていただければいいなと思います。

ほかにございますでしょうか。

○髙橋委員　Ｂ問題についてなんですけれども、「ほとんど正答していない児童・生徒が多く見受けられる」とありますが、これを改善するために授業改善を行う必要があるというふうにありますけれども、このＢ問題を解けるようにするための授業改善というのは、今まで行っていたことはなかったですか。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　各学校でも、いわゆる知識を活用させるような学習はそれぞれ取り組んではいます。ただ、その取組の仕方がまだ結果から見ると改善の余地があるという学校も幾つかございますので、そういった学校には指導主事等も一緒に派遣しながら、学校とともに、どういった形で授業改善が図られるのか、今までの取組の中で更にもう少し工夫したり、あるいは時間をかけたりしたほうが良い点を今探っているところでございます。

○髙橋委員　正答率の低いところでは、やっぱり授業が改善の余地があるんだなということが結果に出てしまったような感触はありますか。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　学力の一側面を表していますので、この結果が全て学校の授業の質だとかということには直接はつながりませんけれども、ただ、そうは言っても、ある意味、活用力、あるいは基礎的な知識に関するところでは一つの結果となりますので、そのあたり、学校としても自分の学校で今この辺が課題であると、あるいは、その分布等も見ながら、その数だとか偏りを見ながら、うちの学校では特にここの層に力を入れた今後学習の取組をしていこうだとか、そういったようなところは学校ごとに捉えております。

○髙橋委員　具体的にその方向性がもう見えているということですよね、学校ごとに。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　今、学校がこの結果をもとに検証しているところでございます。

○髙橋委員　あ、そうですか。ありがとうございます。

○田中教育指導課長　二極化というのは、二極化が少しずつ解消されてきたというような、そういうふうな新聞であったりとか分析データが出ておりますが、あまり芳しくなかった学校を見てみると、やっぱり二つの極が見えているんですね。そういったときに、一般に教員は下の山のほうに力を入れてしまうような、そういうふうな授業をやっていってしまいがちになってしまいます。それはあくまでも善意であったりとか思いであったりなんですけれども、そうすると、どちらかというと活用に焦点を当てた、上のこぶのところに当てた、そういうふうなものが欠けていってしまいます。今までは平均で物を語っていたのを、そういうような極を見ながらしっかりとした授業をやっていかないと、更に伸びたいと願っている子の思いにも応えていかなければならないし、そして今現在の課題を抱えている子たちにも応えていかなくてはならないので、それは学校によって違うなと思っています。

　多くの自治体が全ての学校でこういうことをやらせるというような、そういうような方針を出していく中で、西東京市は各学校の実態に応じた指導支援をしていきたいという方向で是非いきたいというような提案になっていますので、私たちは、Ａ訪問も含めまして、是非皆様方にも授業の状況を全て見ていただいて、率直な意見を学校に伝えてあげるということもより大切なことになっていきたいと思います。私たちはそういう思いを持って指導主事のほうを派遣していきたいなと思っております。

○竹尾委員長　今、算数で少人数学級というのをやっていますね。学校へいろいろ行って聞いてみますと、その分けたのを、ちゃんと到達別というんですか、そういうふうに分けている学校と、単純に人数を分けている学校がありますが、そこをやはり、私はね、到達別に分けたほうが、その子たちが伸びるし、それからまだ大変な子は丁寧に教えてやることによって底上げができるから、そのほうがいいんじゃないかなと学校へ行ったたびに思うんですが、その辺、御検討いただければと思います。

○田中教育指導課長　まず、全校で今、習熟度についてチャレンジしております。東京都のほうもそのあたりについては頑張ってやっていきたいという思いもありますし、一つのガイドラインのようなものを今つくってきています。ただ、おっしゃるように、その内容について

は、まだそれぞれの改善というのが必要であって、単純に学力で分ければ伸びるというわけではないと思います。それに対して適切な指導が行われるということが大切だと思いますので、お気付きの点は大切なことだと思いますので、学校のほうが、ただ単純に習熟度をやらせるだけではなく、実態に応じたものになるように、是非全力をもって指導助言していきたいと思っております。

○竹尾委員長　ただ、それが、今私の言ったことが差別化につながらないようにね、これを気をつけなきゃいけないんだろうなというふうに思います。

　すみません。ほかにございますでしょうか。

○宮田委員　質問紙調査のところで、自尊感情や自己肯定感に係る設問で全国平均よりも４～５％、中学校で２～３％高くなった。これは大変いいことだと思うんですね。ただ、ほかの雑誌等の過去のものを見ますと、アメリカとか中国、韓国などと比べると日本は圧倒的にそういう部分が落ちているという調査、これはＯＥＣＤその他で、古い統計ではあるんですけれども、そういう統計になっています。これは、ちょっと全国平均を私は覚えていないのですが、幾つで、どのぐらい高くなっているのかということの質問です。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　今、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験がある」という質問項目につきましては、全国では小学校では71.5％のところが西東京の場合は75.7％となっています。また、中学校では全国で71.1のところが73.8という形になっています。また、「自分によいところがあると認識している」、この問いに対しまして、小学校の場合、全国が35.0のところが西東京市は40.4％、それから中学校では全国は24.3％のところ西東京市は27.9％というような形で、大体４～５％、２～３％となっております。

○宮田委員　最初のは大変結構、70何％、いいんですが、私、５％高くなっていいと思ったんですが、それが４割ではまだやっぱり大分低いですよね。やっぱり過去の統計どおりだと思うので、この辺も是非達成感その他、自分の人生をこれからつくっていくのに重要なポイントだと思いますので、どうしたらいいかというのをそれぞれ工夫してやっていくことが必要じゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　おっしゃるとおりで、特に「自分によいところがある」のほうの形は確かに４～５％、２～３％高くなっているところはあるんですけれども、全体としては４割だったりする、３割程度だったりするものですから、こちらのほうは更に今後高くしていく必要があると捉えます。

　西東京市は、研究奨励事業の中で、自尊感情や自己肯定感を高める研究を進めています。そういった学校での取組の中で、やはり自尊感情を高めるための日常的な授業の中での工夫、それから学習内容として自尊感情を高めるための工夫等についても、ここのところ研究を進めています。そういった研究を更に深めたり、成果がある部分については各学校に広く周知するなどして、この数値を更に高めるよう努力してまいります。

○宮田委員　じゃあ、そういう研究事業をやったところの学校は、やはりそれなりの成果というのは上がっているんでしょうか。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　ちょっと今具体的にそれがあるとかないと

かということになると、具体的な学校名を指してお答えすることにつながるため申し上げられませんので、ご理解をお願いいたします。ただ、その辺については、関連があるかどうかについては、こちらのほうできちんと把握して、関連があるところについてはまた学校での指導の際には生かしていきたいというふうに考えております。

○竹尾委員長　もっと子どもに自信を持たす必要があるんだね。自分をそんなに低く評価しなくてもいいよということが――自信を持ちすぎても困るけれどもね。

　ほかにございますでしょうか。

○髙橋委員　先ほどブックフェスティバルのお話が出ましたけれども、ブックフェスティバルは、他校の中学生同士が一堂に集まるとても少ない機会で、とてもいいと思うんですが、今後の取組の方向性として、この４番のところに「小・中連携、小・小連携」はありますけれども、先生方同士の中・中、中学校・中学校の連携というのは必要ないんでしょうか。これはありませんけれども。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　中学校ごとの連携も必要だというふうには思います。教員同士が学び合う風土を醸成していくという点では、中学校においてももちろん必要だというふうに捉えております。ひとまず、今回のことを受けて、まず連携を組みやすい、もともと実績のある小・中連携、中学校を核にした小・中連携から、その横の小学校・小学校もできるのではないかということで、今回は小・小連携と小・中連携で示しましたが、学び合う風土を高めていくという点では、中学校同士の連携も当然必要だというふうに捉えております。

○田中教育指導課長　おっしゃるように、中学校は各教科１人だったりとか２人だったりとか人数が少ないので、中学校同士の連携でやるということはとても大切なことだなと今、認識しましたので、是非その観点を持ってまた仕組みをつくっていきたいと思っております。

○宮田委員　いろんなデータを持っているのは教育委員会だけだと思うんですね。今質問があったことまで含めて、そのほかも分析して、これは各学校に配っていただいているんでしょうか、過去は、分析した結果。だから、こういうふうにしたから大変良かったので、皆さんの学校もそれプラスアルファでお考えくださいみたいな。例えばさっきもインテンシブに応用問題をやったらこうなった、だからというようなことを知らせないと、知らないわけですよね、それぞれそれでいいと思っている可能性もあると思うので、そういう連絡、それぞれが自主的に小・中だとか中・中だとか小・小連携しなさいという話は今出ましたけれども、教育委員会として分析した結果を配っているかどうか。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　今回の26年度の結果の分析につきましては、先日行われました教務主任会において分析をした結果を伝えて、それぞれの取組ですとか、各学校の取組に参考になるようにしております。

○宮田委員　一度それを見せていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○竹尾委員長　今の、次の機会にでも――異議があればいいけれども、次の機会でもいいから検討してください。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　わかりました。

○田中教育指導課長　今、宮田委員がお話しされたことなんですけれども、今回、こういう形

で皆さんにお知らせするというふうに一つしっかり方針をつくりましたので、当然これまでよりも深度のある分析はかけていないと、私たちがお約束している、例えば授業改善推進プランというふうな各学校がつくるものに反映できないと思いますから、今後、学力向上委員会というものをどうつくり込んでいくかということが一つポイントになると思いますので、もう少し頑張っていきたいなというふうには思っております。

○宮田委員　よろしくお願いします。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　すみません。今、教務主任会で報告をしましたということをお伝えしましたが、その中では口頭で今お示しした内容について説明をしたということです。また、各学校は、こういったデータをもとにしながら学校ごとに分析をして、授業改善推進プランを今、作成しているところです。そういった授業改善推進プランでの学校ごとの分析について、教育指導課のほうでその内容を一つ一つ丁寧にチェックしながら、各学校での分析の仕方について、西東京市が持っている情報などを情報提供しながら、より学校ごとのプランの精度が高まるように支援していくという内容でございます。

○宮田委員　私は、それは逆で、先に現状の分析をしてあげて、それをもとにして各学校に自主的に考えていただいて授業改善プランをつくったほうがいいと思うんですね。今おっしゃったのは、それぞれ情報が十分――口頭でという、口頭程度の情報しかないところで、それぞれ口頭で聞いたことをアイデアにして授業改善プランをつくって、それでまた教育委員会が持っている分析結果と照らし合わせてサジェスチョンするというような言い方をされたと私は理解したんですが、そうではなくて、文書でこういう改善をしたところはこうですとかということをお知らせした後、それを見てそれぞれの学校で授業改善プランをつくって、それを更に検討することはいいと思うんですけれども、情報を十分与えないでそれぞれ先にやって後からサジェスチョンするよりは、私は先に考えていただいたほうがよろしいんじゃないかと思うんですが、いかがですか。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　各学校には、今日お示ししましたような全国、あるいは東京都、そして西東京市の比較した数値については既にお伝えしてあります。そういったようなところで、今、学校はこういった数字をもとにしながら分析をしているところです。

　今日は西東京市全体の傾向について報告させていただきましたが、先ほどもお伝えいたしましたように、学校によってはこの西東京市の平均に近い学校もございますが、西東京市の平均とは違う様相を示している学校もございますので、学校ごとに、それぞれ全国や東京都、そして西東京市のこういった数字を使いながら、細かく今学校ごとの課題を分析しているというところでございます。

○宮田委員　私は、その数値は当然差し上げるのは結構ですけれども、それだけじゃ、例えばどういうふうにＢ問題に対してやったら全国より４～５％良くなったかという、そういう具体的なところは、これを渡したのではわからないと。今これを渡すとおっしゃったと思っているんですが、そこでどんなことをやったかという具体例を入れてそれぞれの学校に出したほうがよろしいんじゃないか、それに対してそれぞれの学校で考えてもらったほうがよろしいんじゃないかと言っている、さっきからそう言っているつもりなんですが。

○内田教育部主幹（教育指導課）兼統括指導主事　各学校では、今こういった数字をもとに分析はしているんですけれども、それぞれ指導主事が学校を回りまして、文部科学省が示している――例えば今宮田委員がおっしゃったような具体的な手立てが示してある文部科学省の冊子もございますので、そういったものを一緒に示しながら、各学校での授業改善推進プランが充実するように今支援をしているところでございます。

○宮田委員　ちょっと合わないんですが、文科省はそれで結構なんですが、私がさっきから言っていることは、９～14％努力した結果いいという結果が出ているので、そこをどうされたのかということも情報として教えてあげてそれぞれプランをつくったらいかがですかとさっきから申し上げているんですが。まあ、表現が悪くてわからなかったのかもしれないんですが。

○江藤教育長　今、宮田委員がおっしゃっていることは、もっともなことだと思います。要するに、西東京市内の成功例――今、宮田委員がおっしゃっているのは成功例、実際にこの数字として表れた成功――実際にポイントが上がっている事例がここに説明があるわけですから、その学校が取り組んでいる成功事例もあわせてプランをつくる段階で情報提供をしてくださいというのが今宮田委員のおっしゃっていることなので、それは今まさしく各学校で取り組んでおりますので、その学校のほうに――要するに、ここ何年か研究奨励校としてこんなことを取り組んでいる学校はプラスの傾向が出ていますよという成功事例もしっかり学校のほうに情報提供して取り組んでいくようにしていきます。

○宮田委員　それで各学校が自主的に考えていただくというふうに。

○田中教育指導課長　今、指導主事が回っておりますけれども、今お話があったとおり、ここに示した中で当然学校が疑問を持ったりとか知りたいということがありますけれども、知りたい学校に示しているだけではなく、今御意見があったとおり、こういうような学校はこういう取組をしたからこうなったんだということもあわせて先に指導助言していくように回りたいと思いますので。

○宮田委員　是非それはお願いしたいと――。

○田中教育指導課長　やっていきます。

○竹尾委員長　ほかに質疑はございませんか。――質疑を終結します。

以上で報告事項を終わります。

――

○竹尾委員長　日程第４　その他、を議題といたします。教育委員会全般について何か御質問等がございましたら御発言願います。

○宮田委員　これは新聞なんですが、昨日か一昨日出ておりましたが、新入の女子教員に校長さんが強引にキスをしたということで懲戒がありました。そんなことは研修その他でわかっていることなんですね。研修、たくさんやっていると思います。セクハラだとかパワハラだとか、その他いろいろ研修を。でも、実際問題としてこういうことが起こっているわけです。そのことは、実はその前にそれに類似、そこまでいかないものでも、どうもあの先生はセクシャルハラスメントをしているんじゃないかとか、そういううわさとか何かというのは必ずあるんですね。突然ある校長さんが急にそういうことを起こすということではないので、何

となくは分かっていると思うんですね。だから私は、分かっているときに教育委員会が「あなたはそういうことがありますけど、注意してください」と言うことで、かなりそういうスキャンダルみたいなものを予防できるし、それから、西東京市がもしそういうことになったら大変不名誉なことでもありますから、不名誉なことも避けられると思いますので。

まあ、貝原益軒、「未病」、病気になる前に対応すべきということなんですが、ある程度兆候は必ずあると思うんです。急にその先生が、何回も言うようですが、なるわけではないので、その前に是非御注意いただいて、そういうことがないようにお願いしたいと思うんですね。研修をしたってだめです。だから、個人に言うということだと私は思っています。

○竹尾委員長　教育長、見解はありますか。

○江藤教育長　私も経験上、幾つもそういう案件を処理してまいりました。今、宮田委員がおっしゃるとおり、やっぱりあの人だったか――結果的にですね、そういうことがやはり多々あります。今いただいた御意見のとおり、言ってみれば、集合研修でやりますと自分のこととして受けとめない。これは自分のことではないという形で受け流してしまうことが多々あろうかと思います。御指摘のとおり、私どもも、一人一人の、今は管理職というお話でございましたけれども、そういう傾向とか、気になることがありましたら、未然に注意をして、事故防止に当たってまいりたいと思います。貴重な御意見をありがとうございます。

○森本委員　先日の案件を受けて、当該校ではスクールカウンセラーが派遣されていると思うんですが、今現在の状況みたいなものを教えて――どういう割合で派遣されているですとか、どういう様子であるとかということを教えていただけますでしょうか。

○渡部教育支援課長　前回の教育委員会以降、夏休み期間中、スクールカウンセラー、それから市の臨床心理士によりまして、前回お伝えしたとおり、個別の面接ですとかグループ面接のほうを実施してきているところです。

夏休み期間中は、それと並行して、朝の職員会議、それから学年会ですとか、そういう校内の委員会にも臨床心理士のほうが出席するようにしています。その結果ですけれども、２学期を迎えるに当たって日常性を取り戻すということで、大きな支障はなく２学期を迎えることができました。

２学期の初日ですけれども、午前中に心と身体の健康調査を実施しまして、その分析をその当日午後行い、翌日から、９月２日から９日の間ですが、校内で全員面接がありました。これは担任の教員による全員面接なんですが、ここにその結果をフィードバックしましてその面接を実施しました。さらに、先週、その分析をしまして、今後、長期的に継続してカウンセリング等が必要な子どもたちを挙げるというようなことをしております。

また、今も教員への支援を継続して続けていまして、臨床心理士のほうはほぼ毎日行っております。９月に入ってからは、スクールカウンセラーのほうは通常勤務になっておりますので、週１日しかいませんので、市の臨床心理士のほうでその辺については対応しているところです。

今後につきましては、こころとからだの健康調査のほうは、１回だけではなくて、通常ですと３箇月後ぐらいにまたやるということがありますが、その辺に関しまして、学校のほうと相談しながら、いい時期にまたやっていきたいというふうに考えているところです。

以上でございます。

○森本委員　ありがとうございます。じゃあ、スクールカウンセラーは、平常どおりの、いわゆる都のスクールカウンセラーの週１に戻ったということですね。

○渡部教育支援課長　はい。

○森本委員　あと、やはり継続して市のほうで対応していただけるということで、そちらのほうをお願いしたいと思います。

スクールカウンセラーについては、今、泉小のほうでも閉校に向けてということで通常よりは多く派遣していただいていると聞いております。泉小ではとても助かっているとやはりおっしゃっていたんですね。そういう話を聞きますと、やはり週１の都のスクールカウンセラーだけだと少し全体的に足りないんじゃないかという思いは私自身しておりますので、今後、市のほうでも派遣ができるようであるのでしたら、全ての学校にそういう体制がとれるといいなと思っておりますが、そういったことは可能なんでしょうか。それは無理なんでしょうか。

○渡部教育支援課長　スクールカウンセラーは、今、東京都から配置されておりまして、これはもうきちんと35週――35日という考え方なんですけれども――というふうに決まっております。それ以上は絶対に派遣していただけないということになっておりまして、それを補完する意味で、市のほうで、今お話のあったとおり、泉小にはほぼ毎日の状態で派遣をするというようなことをしております。ただ、臨床心理士のほうはなかなか、報酬のほうも高いということもございます。そういう関係上、財政的な措置が必要になりますので、今後も国や都の財政支援などがありましたら、そういうものを活用しながら増やしていくということと、あわせて、東京都のほうには、毎年、時間の増ですとか、日数の増ですとか、その辺はお願いしているところでございます。今後については、こういう案件もありましたので、派遣に関して検討していく必要があるというふうには考えております。

○森本委員　是非よろしくお願いいたします。

当該校のほうで、やはり学校のほうですごい危機感を持っていらっしゃるんだと思うんですけれども、学校だよりなんかを拝見していても、学校のほうの取組としても本当に何か悲壮感漂うぐらい先生たち、頑張るぞという姿勢はとても見えているんですけれども、やはりそこで、もっと地域の助けですとか保護者の助けというようなものを訴えていくということも大事なんじゃないかなと思っております。もちろん学校として頑張っていって、こういうふうに守っていくぞという姿勢も大事ですけれども、そこのところで、教育委員会としても、もっと外に対する助けの声ですとか協力を求めるですとか、ということで、先生方が全部背負い込まないようにしていただきたいなと思っておりますが、その辺、当該校だけではなく、ほかの学校も含めて、何か今後考えていらっしゃることはございますでしょうか。

○渡部教育支援課長　今、スクールカウンセラーの会議、それから学校の教育相談を担当している先生方が集まる会議がございます。そういうところで、この案件につながる形で研修等を実施する予定にしています。今月末にありますけれども、東京都のほうから派遣をしていただいて、いわゆる事案の検討等をしていくというようなことにしております。そのように、この問題につきましては、学校、スクールカウンセラーを含め、いろいろな形で対応してい

くということをしていきたいというふうに考えております。

○田中教育指導課長　当該校については、積極的に地域の力であるかと家庭の力を借りろと、そしてＳＯＳを出してくれというような話を８月の終わりにしてあります。その結果、多分校長がお話をして、かなり９月の当初については、例えば報道機関対応であったりとか、そういうものに関わって、地域に保護者の方であったり地域の方がついていただいたというような、そういうふうな報告は受けています。ただ、私たちが積極的にそういう形で関わったわけではありませんので、是非何か機会があれば、そういう方々とも直接お話をして、是非学校のほうを支えていただきたいというような投げ掛けは個別にしていきたいなというふうに思っております。

○森本委員　よろしくお願いします。

○髙橋委員　本当に当該校の先生方は、もう全身全霊で生徒たちに寄り添っていこうという形で今やっていらっしゃると思うんですけれども、その方法というのが、試行錯誤というか、行き当たりばったりにならないように、本当に具体的なことで、例えば子どもたちに寄り添うために、休み時間も昼休みも職員室に戻らないで子どもたちの指導を続けるというふうな方法を具体的に挙げていらっしゃったりするんですけれども、それで先生方が疲労困ぱいしてしまっては――既にもうかなり疲労されていると思うので。そこで、その方法というのが効果的であればいいんですけれども、そこのところというのが学校に任せ切りになっているのではないかという心配をちょっとしているんですけれども。

○渡部教育支援課長　今現在は、臨床心理士が学校のほうに行きまして、特に当該生徒の学年の先生方には常にお話を聞くというようなことを繰り返しております。特に担任の先生ですとか部活の顧問の先生、こちらの先生方には特に配慮して、２学期から授業が始まったことによりまして、生徒から直接視線を受けるというようなことで、かなり緊張感を持って始まったということがございます。その中でも、なるべく話を聞いて対応するというようなことを臨床心理士に今、させているところです。これはまたしばらく継続する必要があるというふうに考えているところです。

○髙橋委員　じゃあ、その先生方の具体的な生徒に対する寄り添い方というのは、臨床心理士の方のアドバイスがあってなさっているということですよね。

○渡部教育支援課長　そのように対応しております。

○髙橋委員　わかりました。

○竹尾委員長　ほかに質疑はございませんか。――質疑を終結します。

以上でその他を終わりといたします。

――

○竹尾委員長　次に、議案第38号　西東京市公立学校職員に関する措置等について及び報告事項（２）西東京市公立学校職員に関する処分については、個人情報に関する案件であることから、先ほど決定したとおり、西東京市教育委員会会議規則第13条第１項ただし書きの規定に基づきまして、会議を秘密会とさせていただきます。

恐れ入りますが、関係者以外の方は退席をお願いいたします。

それでは、暫時休憩いたします。

午　前　11　時　03　分　休　憩

午　前　11　時　17　分　再　開

○竹尾委員長　それでは、休憩を閉じまして会議を再開いたします。

以上をもちまして平成26年西東京市教育委員会第９回定例会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

午　前　11　時　17　分　閉　会

西東京市教育委員会会議規則第29条の規定によりここに署名する。

西東京市教育委員会委員長

署　　名　　委　　員